

— 発行と編集 —

〒254-0811

神奈川県平塚市八重咲町3番8号

湘南農業協同組合

編集責任者: 布施 喜 英

電話/0463 (23) 1155 (大代表)

FAX/0463 (23) 8622

<http://www.jakanagawa.gr.jp/shonan/>

平成18年1月10日

迎春

1月号 No.477

全正組合員配布

しあな

農作業メモ



神奈川県農業技術センター

熱水土壤消毒

1. 熱水土壤消毒とは

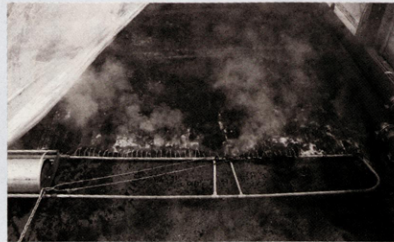
熱水土壤消毒とは、ほ場に熱水（70～95℃）を注入することで地温を上げ、有害微生物を防除する消毒法です。

ほ場に熱水を注入すると、表面は容易に高温となりますが冷めやすく、逆に深部は高温になりにくいのですが、いったん到達した温度は長く維持されます。この土壤の持つ温度特性を利用し、高温による瞬間的殺菌と比較的低温（50～60℃）による緩行的殺菌の組み合わせで土壤消毒を行います。

花き、野菜での利用が多く、花き類はバラ、カーネーション、スイートピーなどの切花栽培のほ場で利用されています。深さ30センチくらいまでの消毒が可能です。土壤病害や線虫、雑草に対して安定的な効果があります。また、消毒後に植え付けを行う作物の生産性向上が期待できます。

2. システムのタイプ

ポイラーから熱水をほ



場に設置した散水管を用いて散布するシステム。熱水を移動式の注入用ノズルから散布するシステムがあります。

各システムは販売されていますが、業者がシステムをほ場に持ち込み、消毒を請け負うリース方式も利用できます。この場合は、電源と水源があれば導入が可能です。

3. 消毒方法

熱水を手早く土壤へ浸透させることが重要なため、処理前により深く耕起します。

1平方メートルあたり200～300^{リットル}の熱水をかけ、保温のためビニールマルチを行います。ポリエチレンフィルムは耐熱性が劣るため利用できないことがあります。

土壤の硬度や地下水位の高さ、ほ場の斜度（斜度が6～7%程度までならば効果が期待できます）などが消毒効果に影響を及ぼす要因となります。

（普及指導部・花き担当・木村一雄副技幹）